

開催日時	西暦 2025年 8月 11日 ~ 13日
開催場所	神奈川県鎌倉市由比ガ浜4-6-13 KKR鎌倉わかみや
参加者	78名(内応用物理会員 68名)
実施組織	応用物理学会放射線分科会

開催目的

次世代を担う若手会員の会員数増大を目的に、次世代放射線シンポジウムの名称にて分科会会員向けの講演会を開催し、放射線計測基礎技術・量子センシングに関する講演、学生ポスター発表会や食事会を通じて分科会会員同士の親睦が深まるようにすること。

開催内容

放射線計測基礎技術・量子センシングに関する5件の講演、医学物理学会共催講義2件、若手研究者によるイベント、学生ポスター発表会などを2泊3日で企画し、発表いただいた研究内容について、次世代の分科会のあり方を含めて議論した。

開催結果(成果)

本シンポジウムは、平成元年(1989)年に放射線分科会の「放射線夏の学校」として開始されて、それ以来途切れることなく、毎年続いており今回で第37回となります。従来から、放射線計測に関連する講義や、学生による発表、懇親会を通じて、若手の学生・研究者と中堅・シニアの研究者との交流を深め、次世代の放射線分科会を担う人材を育成することを目的としてきました。

今回は、2025年8月11日～13日に、神奈川県鎌倉で「次世代放射線シンポジウム2025・第37回放射線夏の学校」として実施いたしました。関東地区での実施は、新型コロナウイルスの影響などで、2019年の第31回放射線夏の学校(東京都立大学)以来、6年ぶりの開催となりました。現地参加人数は72名であり、講義や発表も円滑に実施することができました。今回の夏の学校は、「放射線計測基礎技術の温故知新から量子・医学応用へ」をテーマとして、講義を企画しました。東京大学の高橋先生には、ご自身の経歴と新しい技術の導入に伴う、研究の展開、富山高等専門学校の高田先生には光ファイバーを用いたいろいろな場所での放射線計測、オキサイド石橋先生にはGSO単結晶とPETの開発の歴史について講演をしていただきました。また、神奈川県がんセンターの草野先生には重粒子線治療装置(i-ROCK)の特長やそこで行われているCT画像を使った研究に関するたいへん興味深いご講演、湘南鎌倉総合病院の後藤先生には、BNCTのご講演と本シンポジウム内での施設案内をして頂きました。東京都立産業技術高等専門学校の山田先生には高エネルギー加速器実験用として必要な半導体ピクセル検出器の原理や開発、岡山大学の岡井先生には原子力時計の原理や歴史、研究にとっての重要性について講演をしていただきました。学生のポスター発表も行われ44件の発表が行われました。その結果、3件がポスター賞として表彰されました。

今年度は天気も良く無事開催することができ、盛会のうちに夏の学校を終えることができました。今回も二晩とも夕食後に意見交換会を盛大に行うことができました。意見交換会の際には、研究室自己紹介やポスター賞の表彰式も行われ、講師の先生、教員、企業参加者、学生が入り乱れ、十分に懇親と交流が深められ、今後の分野の発展を支えるコミュニティの形成に大きく貢献する機会となりました。

